

横穴墓の多い出雲

横穴墓は横穴式石室と同様、古墳時代の後期の代表的な埋葬施設の一つです。その分布は全国的に見ると、関東、大阪周辺、福岡・大分北部、熊本、そして山陰などに偏っているのが特徴です。

出雲では、現在のところ六〇〇カ所近くの横穴墓群が知られていますが、その

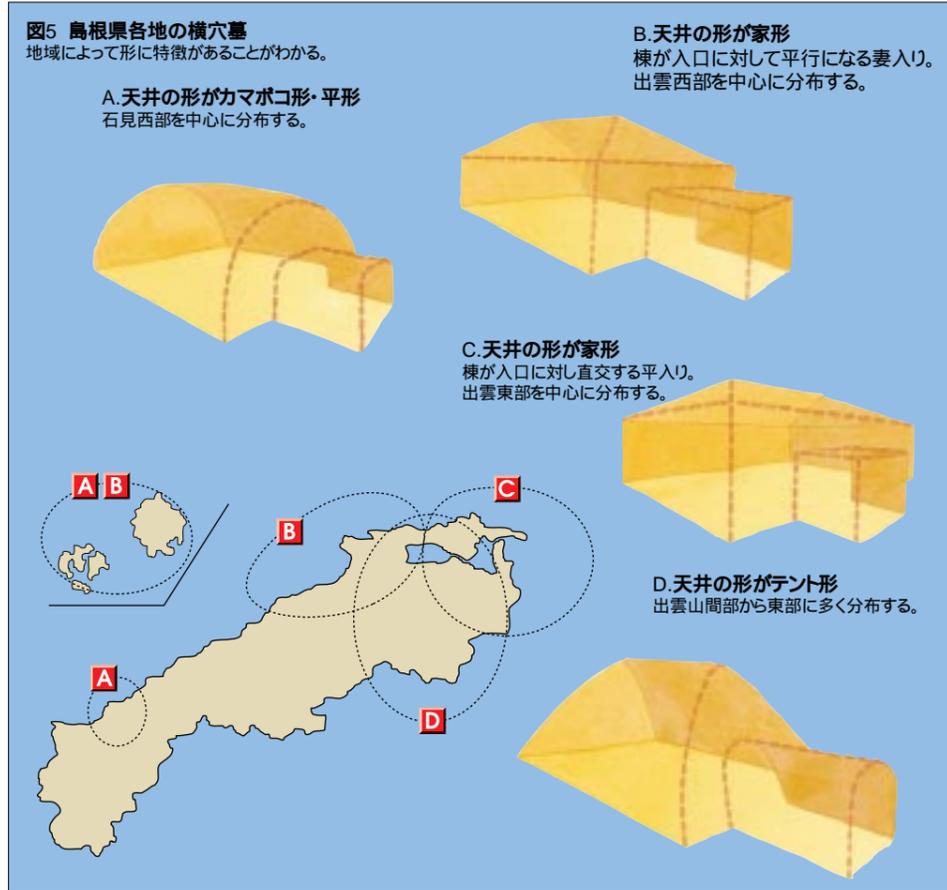
うち四六〇カ所、全体の七八パーセントは出雲に集中しています。石見では八

カ所（一四パーセント）がわかっています。これらは大田市や益田市付近にまとまって分布しています。また隠岐では四五カ所（八パーセント）あまり見られませんが、島の面積を考えると、比較的分布密度が高いと言えます。（図5および7巻を参照）

横穴式石室に見る出雲と九州

出雲東部に横穴式石室が伝えられたのは全国的にはやや遅く、六世紀の中ごろと考えられています。このころのものは松江周辺に多く、近畿や九州北部・九州中部と、各地の影響を受けたさまざまな形の石室が見られます。やがて六世紀後半になると、松江市のほか八束郡や安来市などで、横穴式石室の一種である石棺式石室が造られるようになります。この石

室は、肥後現在の熊本県に見られる横穴式家形石棺をモデルとしており、出雲東部で独特な形に整えられたものです。横穴式石室の築造は複雑な土木工事であり、形態の類似は、石室造りの技術者の交流を推測させますが、なぜ出雲と九州に結びつきが生まれたのか、当時地方支配の強化に乗り出していた大和の動きと合わせて、たいへん注目されるところです。



*もっと知りたい人のために

ほとんどの本が廃版となっていますので、図書館でご覧になることをおすすめします。また、このほか郷土の歴史を綴った市町村史（誌）に、それぞれの地域の古墳が詳しく書かれています。

- 山本 清ほか『山陰古代史の周辺』上・中・下 山陰中央新報社 一九七八―七九
- 『八雲立つ出雲の世界』えとのす16 新日本教育図書 一九八一
- 前島己基『島根』日本の古代遺跡20 保育社 一九八五
- 渡辺貞幸ほか『王権の争奪』日本古代史4 集英社 一九八六
- 白石太一郎編『古墳時代の工藝』古代史復元7 講談社 一九八九
- 山本 清『出雲の古代文化』人類史叢書8 六興出版 一九八九
- 都出比呂志編『古墳時代の王と民衆』古代史復元6 講談社 一九八九
- 大塚初重ほか編『日本古墳大辞典』東京堂出版 一九八九
- 松本岩雄ほか『古墳時代の研究』10 地域の古墳 西日本 雄山閣出版 一九九〇
- 西尾克己・大國晴雄『出雲平野の古墳』出雲市民文庫9 出雲市教育委員会 一九九一
- 渡辺貞幸ほか『古代史シンポジウム・大和政権への道』日本放送教育協会 一九九一
- 渡辺貞幸ほか『前方後円墳集成』中国・四国編 山川出版社 一九九一
- 勝部 昭ほか『図説日本の歴史』古代3 同朋舎出版 一九九一
- 西尾克己『宍道町の古墳時代』宍道町ふるさと文庫6 宍道町教育委員会 一九九二
- 西尾克己ほか『宍道町の横穴墓』横穴式石室集成（古墳時代編） 宍道町教育委員会 一九九三
- 宍道町教育委員会・出雲考古学研究会『石と人』宍道町ふるさと文庫8 宍道町教育委員会 一九九五
- 山本 清『古代出雲の考古学』遺跡と歩んだ七十年 『ハーベスト出版』一九九五
- 山本 清編『出雲国風土記の巻』風土記の考古学3 同成社 一九九五
- 渡辺貞幸『出雲世界と古代の山陰』古代王権と交流7 名著出版 一九九五
- 山本 清監修『島根県の地名』日本歴史地名体系33 平凡社 一九九五